メ等の知識、です。そして、今回おじゃましたS学院のような一般の語学学校では、1）留学、2）就職、3）日本語そのものへの興味、です。調べてみたら、愛大にもS学院で日本語を勉強していた留学生がいました。夢が果たせたわけですね。

さて、みなさんは、何のために外国語を勉強しているのでしょうか。その言語自体への興味はありますか。そして、私は…。中国東北の鶏西という地方都市で、熱血教師と出会い、熱い日本語学習者と触れ合い、良い心地でバスに乗り、ハルビンまで8時間の帰途につきました。

参考：国際交流基金「日本語教育国・地域別情報」
http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2011/china.html

受身表現の“被高速”現象
－中国語の新用法から－

現代中国学部　薛　鳴

中国に行く度に新しい言葉に出会う。今年も中国でたまたま手にした地方紙の見出しに“〇〇被死亡”というのを目にしたとき、新鮮さと驚きを覚えた。

筆者が大学で日本語を勉強するとき、日本語の受身表現に「間接受身」（「迷惑受身」とも）という、中国語の受動文にない受身の用法を知った。例えば、次のような例文があった。

①彼は幼少時に父親に死なれ、家計が苦しくて大学に行けなかった。
②昨夜、隣りの赤ちゃんに泣かれて、よく眠れなかった。
③お客さんに来られて勉強できなかった。

これらの文を中国語に訳す際に、そのまま“被V”と直訳できない。以下のような意訳になろう。

①′他儿时丧父，家境困难，没能上大学。
②′昨晚隔壁的孩子哭得我没睡好觉。
③′来客人，搞得我没能学习。

少し高度な訳になったが、言い回しの工夫を差し引いても、中国語では“死”、“哭”、“来”のような自動詞は“被V”の形にできないため能動文になる[i]。それだけに、その新聞の見出しの“被死亡”を見たときは、中国語もとうとう「死なれた」的な用法が出現したかと思った。が、記事の内容を読んでみると、ある同姓同名の死亡者のせいで、その〇〇というタレン

トが「死亡」とされたという話であった。つまり、本人（A）が知らないうちに、「死んでいる」のであって、誰かに死なれているのではない。しかし、それによってAは迷惑を被る。似通ったものに“被自杀”（自殺とされる）もあるが、まさに中国語の伝統的な“被V”とも日本語の迷惑受け身とも異なった新用法である。

そこで、まず、中国語の伝統的な“被V”についておさらいをしてみよう。基礎中国語のテキストには次のような例文がある。[ii]

④树被风刮倒了。
　木は風に吹き倒された。
⑤我的汽车被（树）压坏了。
　私の車は（木に）押しつぶされた。
⑥我被雨淋了。
　私は雨に降られた。

それを一般化すると、次のようになる。

A+被+B+V　{AはBにV（さ）れる}
A：“受动者”（動作の受け手）
B：“施动者”（動作者）

動詞［V］は通常、何かの結果をもたらすことを含む意味を表すため、「結果補語」を伴うことが多い（④、⑤）。一方、動作者を明示しない「A被V」{AはV（さ）れる} の場合もある。受け身だけに、Aにとって不本意であるため、Vはマイナス的な意味を持つ動詞が多い。

そこで、“被”の新用法について、伝統的な“被V”とどう違うか。もう少し用例を見てみよう。[iii]

⑦“我是年年‘被捐款’”市民刘先生说，…每年工资里都会被不经协商地扣掉几百块钱。
⑧广州公交车上你“被让座”了吗？

⑦の“被捐款”で“捐款”（寄付）したのは“刘先生”で、後半の文で分かるように、「知らないうち、毎年給料から何百元も天引きされている」。つまり、「寄付という名の下で給料が引かれる」という意味で語っているものである。⑧の“被让座”も「席を譲られる」のではなく、「譲る」のである。

そこで、この用法を一般化すると以下のようになる。

“A被V”
A：“施动者”（動作者）

「動作者」の観点からすると⑦、⑧は下記のようになる。

⑦´“我是年年捐款”・・・　（私は毎年寄付している。）
⑧´广州公交车上你让座了吗？（広州のバスの中ではあなたは席を譲りましたか。）

では、なぜわざわざ“被”を使うのか。

“被”を付けることによって、知らないうちに、または、やむを得ず、あることを「させられた」、あるいは、ある状況に「仕立てられた」という意味になる。したがって、日本語と対応させるなら、「られる」形の受身ではなく、「させられる」形の使役受身になる。“被捐款”、“被让座”は、「寄付させられる」、「席を譲らされる」という意味だ。ここで用いられる動詞は、プラス的な意味を持つ二音節動詞なのが特徴である。一方、不本意であることは、伝統的な“被V”に通じる。それが“被”が用いられる理由の所在とも言えよう。

中国版言語生活白書である「中国语言生活绿皮书」2009年『汉语新词语』の記述によると、2009年の「今年の漢字」の第一位に“被”が

選ばれた[iv]。実際以上の成長率を報じられる“被増长”、民意が反映されないままの“被代表”、上場が決まる前に上場と報じられる“被上市”、親の意思で留学させられる“被留学”等々。民主的でない現状を“被～”型としてツイットされたのが広がったのち、マスコミにも登場したわけだ。

この新用法は動詞に留まらず、形容詞や名詞にも広がっている。例えば

⑨一夜之间“被小康”了，虽然这几年我们的工资越来越不够用。

“小康社会”（ゆとりのある社会）という目標を掲げている中国にあって、「一夜のうちに“小康”になったかのように騒がれている。われわれの給料がますます足りなくなったとはいえ。」ユーモア感さえある言い回しである。ほかに“被富裕”や“被幸福”もあるが、いずれも建前と現実の隔たりを皮肉ったものである。

“被”が名詞に冠する用法として、あるときラジオで“被精神病”という言い方を聞いたことがある。精神病呼ばわれ、病院に入れられたという意味で使われたものである。また、ある雑誌では‘中国应慎防“被世界大国”’という題の文章を見る。“World Power”“Great Power”として語られた“中国”に警鐘を鳴らす一文である。

表題の“被高速”も、その発展的な用法の一つである。時速350キロを誇る中国の新幹線―“高铁”（高速鉄道）の開通によって、移動時間は大幅に短縮したが、運賃も大幅に値上げした。出稼ぎ労働者の“农民工”（農村からの出稼ぎ労働者）はもとより、都市部の一般庶民にとっても痛い出費である。そこで、“被高速”という言い方が出現した。

目まぐるしい変化を遂げている中国では、さまざまな社会現象を語るために、たくさんの新語が出現している。今年刊行された≪現代漢語詞典≫第6版に収録された新語、新用法が3000余語に上る。新語を“高铁”と例えるならば、新用法は「在来線」の「既存語」に新しい用法を付与するものと言えよう。が、あまり“被高速”すると、規範性の問題が生じる。ここで紹介した“被”の新用法が引用符“”の中にいるのは、まだ公式な使い方として認められるまで至っていないからだろうか。しかし、“被X”型として注目され、研究論文も現れている。日本語の「ら抜き」言葉が、「可能」、「受身」、「尊敬」表現の使い分けに一役買っているのと同様、“被V”の新用法 ―“被X”は、それでしか表せないニュアンスが込められているので、ますます広く使われるようになるとすれば、いずれ文法書に書き加えられる日が訪れるであろう。

[i] “哭”は、“我被孩子哭得没睡好觉”のように結果補語を伴う場合はかなり自然さが増す。

[ii] 愛知大学現代中国学部漢語研究会編（2006）『中国語課本』あるむ

[iii] 张恒君（2010）「“被X”汉语新词探析」『現代中国語研究』第12期（朋友書店）の用例より

[iv] 候敏 周荐 編（2010）『2009汉语新词语』商務印書館